



国労西日本

国労西日本本部

NO.192

発行責任者 田中 守
編集責任者 羽柴 二郎

安全を守る
職場風土へ
変える先頭に

国労西日本

検索

毎月続く国労加入

職場を変えるのはやっぱり国労だけ

兵庫地区本部・網干車両所 五九才
大阪地区本部・高速自動車 五〇才
ともに、「国労で職場を変えたい」と加入！

近畿地方本部兵庫地区本部・網干車両所分會では、六月七日付で五九才の車両管理係が「最後は国労で職場を変えたい」と、国労へ加入しました。また、大阪地区本部では、七月一日付で、五十才の高速自動車運転士が、「国労は何でも相談に乗ってくれし、会社でも堂々と意見を言う。少数だが頼りになる。ともにがんばろう」と決意した。」と加入しました。

職場や地域でのふだんつながりから始まり、各級機関が創意あふれる運動を進めているなか、毎月続く国労加入



がこれまでの運動の成果であることは明らかです。安全で働きやすく明るい職場風土が、今強く求められています。今年は「安全基本計画」の最終年度となつていますが、待避不良、線閉手続きをとらずに工事に入る事象、信号機の配線ミス、関連企業における労災事故など、重大な事故・事象が続発しています。

安全で安心して働ける職場にするためにも、職場で国労が声を出していくことが重要です。職場要求の実現と組織拡大は車の両輪です。国労組合員だけでなく、全ての労働者と総対話を行い、現場で解決できる要求は現場で解決し、国労の存在感、実行力を広く知ってもらうことが組織拡大につながります。

国労四〇〇〇名組織にむけ、

西日本運輸協議会

第4回職場交流会開催

更なる取組みの強化を！

国労西日本運輸協議会は、六月一三日大阪国労会館において「第四回職場交流会」を開催しました。

西日本運輸協議会では、将来近畿圏を中心に発生が予想

される「南海・東南海地震」や日本海側に立地する原発が地震や津波によって受ける被害想定に対し、社員はもとより利用者の安全対策を考えた場合の対策等を協議し改善させていかなければならないと

「安全基本計画検証アンケート」

ただいま集計中！

福知山線脱線転覆死傷事故から早や七年が経過しました。西日本会社では事故後、国労西日本の申し入れを基本として「安全・安心な輸送と職場を確立」させるために交渉等を強化してきたもとで、「安全性向上計画」が策定されました。その後、残された課題や「調査報告書」の指摘・課題等について、労使協議も経て、五カ年計画としての『安全基本計画』が策定され、「安全を最優先する企業風土の構築」を目指すなかで、到達目標を「お客様の死傷事故ゼロ、社員の重大労災ゼロへ

向けた体制の構築」するとしてきました。この五カ年の取り組みによって、「①お客様の死傷事故、社員の重大労災につながる可能性のあると考えられるリスクが洗い出され、それぞれのリスクの重大性についての評価結果が関係者間で共有されている状態、②優先して対処すべきリスクに対して、対策を実行している状態、③社員から多くの安全情報が寄せられ、リスクに対して適切な監視体制がとられている状態をめぐす」としています。今年度（二〇一一年度）が

『安全基本計画』の最終年度となつているもとで、この計画が職場の中でどのように浸透し、「目的」を果たせられるか、また、課題が残るとするならばどのような課題認識が必要か等を明らかにするために、①「リスクアセスメントに基づく安全マネジメントの確立」について②「安全を支える技術の向上」及び「継承」、「人材育成」について③「安全を支えるコミュニケーションの改善」について④職場の安全について、の四項目に対しアンケートを現在実施し集計を行っています。各職場の状況を検証し、安全で働きやすい職場を構築するためにも全組合員の積極的な取組みをお願いします。



考え、去る三月二〇日から三日にかけて「東日本大震災復興交流オルグ」を行いました。今回の職場交流会では、①「東日本大震災復興交流オルグ」参加者からの報告、②プレゼンテーション、③災害対策について、駅社員「触車事故防止要領」改訂問題についてや不正行為に端を発する現

金事故防止対策について、問題提起と討論、④職場報告の四点を中心に、各地方におけるマニュアルや連絡体制、災害時の訓練等、職場の災害対策の状況と問題点、駅における待避不良事故の現状と対策、現金事故対策と背景等を議論しました。

討論では、「避難する場所や誘導する場所を知らない」「土地勘がないところでの勤務なので誘導できるか不安である」「避難訓練など行ったことがない」「地方ではワンマン列車が運行しているが多くの問題点がある」「会社の作った誘導場所に間違いがある。検証が必要」「現在工務の触防が見直されているが駅触防も早急に改訂が必要である」「現金事故問題は会社の施策にも大きな問題がある」など多くの問題点が発言されました。

運輸協議会では、地震等の震災対策に関して、「JR西日本駅版災害ハザードマップ」の作成を計画し、各地方の各駅における状況を七月末を目途に集約する事としています。また、交流会集会が出た意見や問題点を整理し、西日本本部に対し「三・一一東日本大震災を教訓とした諸問題の改善要求」を提出すると共に、各地方においても地本支社間や現場において問題解決に向け奮闘することを意思統一しました。

東日本大震災激励支援交流オルグを取り組んで 国労西日本運輸協議会議長 澤賢一

職場で奮闘されている組合員の皆さんに心より敬意を表します。

さて、昨年三月一日の東日本大震災を受けて、私たち国労は全国単一組織として組合員・家族など被災された仲間の支援に全力を上げてきました。

私たちはこの行動と共に、このような震災が再び起こっても利用者はもちろん、私たち自身家族も含めた命を守るためにも、震災の教訓を正しく受け止め、職場と地域の総点検と要求作りのため、今回の取り組みを行うことを昨年の定期委員会で決定し、全組合員に行動成功に向けてのカンパをお願いしました。

多くの組合員の協力の下で、去る三月二〇日から二三日にかけて、西日本から五名の仲間がオルグ行動を取り組んでくれました。その詳細は報告集を参照していただきたいと思います。被災から一年という状況のなかで、自らが被災し、さらに家族を亡くされた仲間が私たちを迎入れていただいたことに本当に看奮をする次第です。私たちは多くの仲間の期待に応えるためにも、このオルグから得た経験を基に、安全・安心できる鉄道と職場作りの要求を作り上げなければなりません。

その要求は、西日本全体として会社に求めるもの、各地方で支社に求めるもの、各現場で要求するものなど様々ですが、この間提起してきた「職場総点検行動」を強めていくことが重要

だと考えます。

この間、職場の年齢構成は大きく変わりました。どの職場でも平成採用が過半数を占めるようになっていますが、今後必ず起こるであろう大震災や津波、さらに原発事故から、職場と仲

激励支援交流オルグに参加して(報告集より)

広島駅連合分会 吉本修

組合員の皆さん、西日本運輸協議会の呼びかけに賛同いただき多大なるカンパのご協力ありがとうございました。三月二〇日から四日間、常磐線、千石線、石巻線、気仙沼線、大船渡線、三陸鉄道南リアス線、山田線とJRで働く労働者の立場で東日本の大震災・大津波の現状・問題を現地の仲間の生の声と被災地の現実を直視できる機会を与えていただきありがとうございます。

仙台空港到着時には、鹿島会長(営業分科全国会) 国労仙台地本の仲間の歓迎を受け、緊張感が高まるばかりでした。常磐線周辺の状態、坂元駅、山下駅では被災した広大な土地とはがれたレール、外れかてたままの架線、津波の襲った高さが残っている忘れ去られたような駅舎がたまたまで見えました。

野蒜駅では、集会所を借りて急がれる復興についてJR千石線沿線住民の会の坂元さんより防潮堤・高台移転について、JR・県・市・住民の立場での問題点等説明を受けた。お子さん

間、利用者の安全を守るためにも、この運動は待ったなしです。私たちが運動を起こし、要求を作り上げるなかで、会社の施策を改善させようではありませんか。

秋の労働協約交渉で具体的要求が前進できること、そのために西日本運輸協議会は奮闘したいと思えます。

をもつ夫婦は学校のある地域に引越すのでは、残って行くには高齢者だけ、JRは安全を確保できなければ線路の復旧はないなど切実な問題が提議された。

気仙沼地域にはいると被災状況は一段とひどく、地震、津波、火災、町の至る所にその傷跡を見て取ることが出来ました。熊谷秀三さん(勤務中に被災され殉職された気仙沼分会長)の墓前に参り、生前に働いていた職場陸前高田駅に案内され足下に残った黄色い案内表示をつたつて、以前あったであろう券売機、出改窓口、ホームと歩いて実感した。ホームから望む景色は、遠く海まで見える被災した土地、レールも復旧目的で撤去されている。一年たった今、瓦礫の山がいかに復興・復旧の足かせになっているのか、遠く近くで動くトラック、シヨベルカーだけがもの悲しく感じられました。

今回のオルグに参加させていただき、仙台運協、気仙沼地域分会、宮古地域分会の皆さんには、このような状況のなか強硬な行程にも関わらず親切丁寧な

「日程」 二〇一二年三月二〇日～二三日

「参加者」 近畿地本 秋田泰宏 油井涼一
北陸地本 大巻道秋 岡山地本 片岡有宏
広島地本 吉本修

「課題と目的」

- ① 震災と津波で被災した東日本の仲間を激励し連帯の思いを届ける。
- ② 一年たった被災地の鉄道の状況を調査し実態を知る。
- ③ 震災当時の職場の状況や国労の果たした役割を学ぶ。
- ④ 予想される大規模災害に対し自らの職場の実態を調査し問題点を要求化し安心して働ける職場と安全輸送の確保を目指す。

「訪問線区」

東北本線	仙台～名取	常磐線	岩沼～坂元
千石線	仙台～石巻	気仙沼線	陸前戸倉～気仙沼
大船渡線	気仙沼～盛	釜石線	釜石～宮古
新幹線	盛岡～仙台	仙台空港鉄道	名取～仙台空港

案内と、自分の目で見、肌で感じる活動に貴重な時間を費やしていただき、全国単一組織の国鉄労働組合の組織の力を再確認することとなりました。

行動の全てのなかで、JRという会社が地域住民、利用者、特に交通弱者と言われる高齢者、小中学生に対し、公共交通を担う鉄道事業者としての責務を放棄し忘れ去っているのではないかと。広島でも同じように感じた線区がありました。可部線(可部～三段峡区間)です。雨災害に弱い線区でたびたび不通となり、利用者が減少したとの理由で廃線となりました。このようなことがJR東日本でも起こることがないよう運動を続けていく必要を感じました。

今後の取り組みについて、巨大地震が起きたとき、異常気象時などの問題点、特に旅客が集中する駅における具体的な対策を明確にしていく必要があります。

西日本運輸協議会の報告集から抜粋させていただきました。報告集や記録した画像などは西日本運輸協議会で管理しています。協議会役員までお問い合わせ下さい。

「生きる」を創る。Afiac

◆月払保険料(団体取扱) (2011年4月1日現在)
生きるためのがん保険DAYS(デイズ) スタンダードプラン
入院給付金日額10,000円 定額タイプ
保険料払込期間: 終身(抗がん剤治療特約は10年更新)

	35歳	45歳	55歳	65歳
男性	3,656円	5,608円	9,360円	15,190円
女性	3,734円	5,274円	6,864円	9,048円

<抗がん剤治療特約>の更新後の保険料は更新時の年齢・保険料率によって決まります。

<募集代理店>
アベニール株式会社
TEL: 03-3437-6810 FAX: 03-3437-6822
〒105-0004
東京都港区新橋5-15-5 交通ビル9F

<引受保険会社>
アフラック 東京第三法人営業部
〒163-0458
東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル
当社保険に関するお問い合わせ・各種お手続き
コールセンター 0120-5555-95

AF007-2011-0186 4月25日

「がん」の保障 <生きるためのがん保険Days(デイズ)>

保険期間: 終身(抗がん剤治療特約は10年更新) 契約年齢: 0歳～80歳	スタンダードプラン 入院給付金日額10,000円の場合	
初めて診断確定されたとき	がんの場合	一時金として 100万円
診断給付金	上皮内新生物の場合	一時金として 10万円
入院したとき	入院給付金	1日につき 10,000円
通院したとき	通院給付金	1日につき 10,000円
手術したとき	手術治療給付金	1回につき 20万円
放射線治療を受けたとき	放射線治療給付金	1回につき 20万円
抗がん剤治療を受けたとき (上皮内新生物は対象外)	抗がん剤治療給付金	抗がん剤治療を受けた月ごとに1カ月 乳がん・前立腺がんのホルモン療法の場合 1カ月 5万円 (すべての保険期間を通じて 通算500万円まで)
プレミアムサポート	訪問面談サービスと専門医紹介 (このサービスは、株式会社 法研が提供するサービスです)	
◎詳しくは、パンフレット(契約概要)をご覧ください。		